

Focus Vol.31

長洲町でキラリ輝く人たち

美味しいと

喜んでくれる人たちのために——



田成 一二三さん (建浜区) 長洲ミニトマト部会 部会長

3月15日に長洲産ミニトマト料理コンテストを、3月18日には各保育所・幼稚園でミニトマト勉強会が開催された。

その長洲産ミニトマトの振興に情熱を燃やしているのは長洲ミニトマト部会。その部会長を務めるのは、ミニトマトの生産を始めて14年になる田成一二三さんだ。

田成さんが部会長に就任してから2年。さまざまなイベントや勉強会などを通して、長洲産ミニトマトの魅力をPRしてきた。

「いろんなところで『美味しかったよ』と声をかけてもらうのはやはりうれしいですね。ですが長洲で採れたミニトマトは主に関東や関西に出荷していて、地元で卸していません。そのため、イベントで配布や販売を行っても『どうして長洲で売ってないの?』と言われる時が、少し辛いですね」と肩を落とす。

しかし、そこで立ち止まるわけにはいかなかった。

「美味しいと喜んでくれる人たちのために、長洲ミニトマト部会をはじめ、JA玉名や役場と共同して地元でも販売できるようにしていきたい」と力を込める。

現在、長洲町におけるミニトマト生産者は14人。今後は後継者や新規就農者を増やすような活動を行っていくことが課題となっている。

「20年後、現在の生産者数である14人を下回らないように、これからも頑張っていきたいですね」と未来を見据える。

今行われた長洲産ミニトマト料理コンテストやミニトマトの勉強会には、将来生産者になりたいという子どもが現れてほしい、という願いが込められている。

「長洲はミニトマトの産地です!と言い続けることは簡単なように見えてとても難しい事だと思えます。だからこそ胸を張って言い続けることができるように、美味しくて質の良いミニトマトを作り続けていきたいですね」と想いは熱い。

長洲ミニトマト部会は5月に行われる火の国ながす金魚まつりの初日、5月3日(日)に長洲産ミニトマトの直売を行う。

ミニトマト生産者の情熱の炎は、これからも真っ赤に燃え盛り続ける。彼らの熱い想いが実らせるミニトマトのように。

